

(1) 事業の目的

整備が進む新東名高速道路、伊豆縦貫自動車道等の整備効果を県内各地に波及させるため、アクセス道路整備を行い、静岡県の立地競争力の強化を図ることを目的とする。

(2) 指標① 中心都市等への30分行動圏人口カバー率

指標② ICへのアクセス向上により立地競争力が高まる分譲団地・主要工場の敷地面積
 指標の達成状況

① 平成30年度末の最終実績値は93.9%であり、目標値(93.9%)を達成した。

[高規格幹線IC及び地域中心都市へ30分以内に到達できる地域に居住する人口/県人口]

② 平成30年度末の最終実績値は0haであり、目標値(104ha)を達成しなかったが、対象箇所および同様の効果を発現する事業箇所の整備が着実に推進された。

計画の成果目標	定量的指標			
	H26当初	H30末最終目標	H30末最終実績	H30末達成率
中心都市等への30分行動圏人口カバー率※1	93.2% (3,510,136 / 3,765,007)	93.9% (3,536,475 / 3,765,007)	93.9% (3,536,475 / 3,765,007)	100.0%
ICへのアクセスが向上する分譲団地及び主要工場※2の敷地面積	0 ha	104 ha	0 ha	0.0%

※1 県人口(分母、単位:人)は、目標設定時の条件と合わせるため、H22国勢調査人口を用いて算出

※2 主要工場:従業員300人以上の企業の工場

(3) 指標に関連する実施事例 ① A01-003 (国) 136号 函南～三島バイパス (バイパス整備)

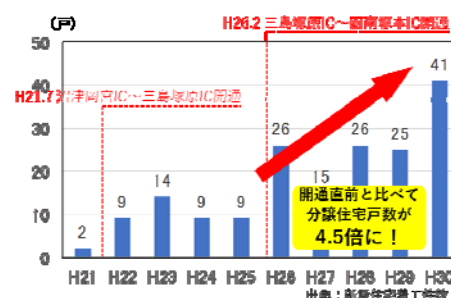


(4) 定量指標以外の効果発現状況

- ・伊豆縦貫自動車道「天城北道路」と一体的に整備した国道136号下船原バイパスの開通により、河津桜まつり期間中や夏季の休日に発生していた「出口交差点」における渋滞がほぼ解消し、西伊豆や伊豆半島南部へのアクセスが格段に向上し、観光交流を促進している。
- ・直轄事業の東駿河湾環状道路と一体的に整備した国道136号函南～三島バイパスの完成・供用により、開通直前と比べて函南町での分譲住宅戸数が4.5倍、大規模な商業施設が5店舗から9店舗に増加し、豊かな生活環境の向上に寄与している。



□ 函南町での分譲住宅戸数の変化



(5) 今後の方針と目標達成見込み

- ① 新たな整備計画等に引き継がれて継続中の事業を推進し、ストック効果を高める高規格幹線道路や工業団地へのアクセス道路の整備、交通円滑化を図る渋滞対策等を進めていく。
- ② 引き続き、令和2年度末の完成・供用を目指して、対象事業箇所の整備を進めていく。
 (令和2年度末に高規格幹線道路ICへのアクセスが向上する見込みの工場敷地面積 133ha)